

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察防除情報 第2号を下記のとおり発表します。

4月下旬の降水量が多く、赤かび病の感染しやすい天候が続いています。特に現地での防除指導にご配慮願います。

令和4年度 病害虫発生予察防除情報 第2号

コムギ 赤かび病の防除対策について

- | | |
|--------|-----------------|
| 1 対象作物 | コムギ |
| 2 病害虫名 | 赤かび病 |
| 3 発生地域 | 県南部地域 (丹波地域を含む) |

4 麦類生育状況、気象予報について

(1) 麦類気象感応調査(加西市、11月8日播種)によると「シロガネコムギ」の出穂期は4月11日で、平年値と比べて1日早かった。それに伴い開花期もやや早まったと考えられる。



写真 コムギ赤かび病. 左:乳熟期, 右:糊熟期

(2) **4月下旬の降水量は102mm (平年値: 43.3mm、福崎アメダス)** で平年の2倍以上と多い。大阪管区气象台(4月28日付)発表の近畿地方の1か月予報によると、降水量は平年並かやや多い確率がそれぞれ40%と一定の降雨が見込まれ、気温は平年並かやや高い確率がそれぞれ40%と、発病が助長される可能性がある。

5 発生生態について

本病は、開花期～乳熟期頃から発生し、穂の一部または全部を褐変枯死させる。甚大な発生となった被害粒は白っぽい屑ムギとなり、収量や品質が低下し、かび毒による汚染を起こす恐れがある。

本病の発生（第一次感染）は、開花始期から 10 日間の降雨日数が多いと発病穂率が高くなり、またこの期間の日最低気温が高いと発病度が高くなると確認されている。本病が、最も感染しやすい時期は、開花期（約 50%が開花）から開花盛期（約 80%が開花）である（農研機構「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル改訂版」より）。

開花期を過ぎて 1 回目の計画的防除が終わっている小麦品種が多いが、4 月下旬の降水量が多いため、発病が増加している可能性がある。

6 防除対策について

- (1) 薬剤によるコムギの防除適期は、開花始め～開花盛期であるが、現地圃場において防除を行っているにもかかわらず、赤かび病の発病を確認している圃場があり、今後、発病が認められた場合は、追加防除を検討する必要がある。
- (2) 薬剤の治療効果はほとんど見込めないので発病前の予防散布が必要である。また、薬剤の残効期間もそれほど長くはないため、開花期に曇雨天が続く年には複数回の薬剤散布が必要である。
- (3) 稲・麦・大豆作等指導指針(令和4年3月改訂) 97ページののとおり、本病の発生がみられる圃場の麦については、健全な圃場の麦と仕分けして収穫する必要があることに留意する（稲・麦・大豆作等指導指針は兵庫県ホームページの掲載ページ（https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html）を参照すること）。
- (4) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。兵庫県農薬情報システム（<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>）

* この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載 <http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222